

市民俳歌柳壇

毎月20日で締め切り、締め切り日の翌々の広報うつのみやで入選作品を発表します。

特選

移植せし新芽の確と百日紅

下田原町 五十嵐 由美子

●特選の選評

昨年秋に西側にあった百日紅が、毎年美しい花を長期間咲かせるので、通りに面した庭の東側に移植した。しかし、秋には期待した花が咲かずじまいで終わってしまった。「移植時期が悪かったのか?」「もしかしたら枯れてしまったのか?」と心配したが、今年の春、各梢にしっかりと新しい芽吹きが出揃い、新緑の百日紅が生き返った。やっぱり「陽の当たる場所に移してよかった」と胸を撫で下ろし、「新芽の確と」の中七に秋の花が待ち遠しいうれしさが伝わって来る一句となった。

俳句



加茂都紀女先生

入選

振花の螺旋にあそぶ風のあり

さつき3丁目 伊藤 純夫

ネクタイを固く結んで新社員

緑2丁目 片嶋 青水

杖をつく妻の手を取り夏料理

平松本町 川野 和美

あと二円足らぬ切手や額の花

さつき3丁目 和田 悦子

特選

主なき谷津田の端の沢水に
山葵一本揺れている夏

清原台6丁目 小太刀 節子

●特選の選評

谷津田川谷地田。谷地にある水気の多い湿田と辞書にある。主はいないので、草茂る田の隅に、山葵を一本見つけたのだ。水がきれいなのだろうが、お宝を見つけたような気分だったのかも。結句の「夏」は、「……夏よ」、「……夏だ」としたら歌が締まる。

短歌



藤本 都先生

入選

近づいても逃げぬつばくろきみは吾を
信用したか生き物として

西原2丁目 久保川 賢一

青葉闇わづかに届く朝日かげ
大地はおおどかな鎮もりにあり

大曾5丁目 岩淵 照美子

薄綴じの父の歌集の残されて
対話のやうに読む一首づつ

平出町 田村 成夫

黒髪を一つに結び弓を引く
横顔眩し君は十六歳

緑2丁目 岩田 豊子

特選

婿殿へ返品不可と言ひ渡し

弥生2丁目 渡辺 裕子

●特選の選評

長い夫婦生活において互いの欠点を知り認め合い、言いたい事を言っても助け合って添い遂げたいものである。親としても嫉の行き届かぬ娘を娶る婿に陰で詫びながらも離婚などともない娘の末永い幸せを願うものだ。

川柳



佐藤隆久先生

入選

折り紙の折れ線ひとつ夢うごく

桜5丁目 遠藤 芳孝

診察後三日は守るアドバイス

下栗町 土屋 勝美

ワクワクを見付けた老婆紅をさす

下栗町 大塚 榮子

軽トラで神輿渡御する夏祭り

清原台4丁目 水上 義明

俳歌柳壇の応募方法

- 1人各3句(首)以内。俳句・短歌・川柳の併記は不可。
- 対象は市内在住者で、未発表作品。年齢問わず応募できます。
- はがき表面=住所・氏名・ふりがな・応募する壇名。
- はがき裏面=作品(漢字にはふりがなも)・作品への思い。
- 毎月20日までに、〒320-8540市役所広報広聴課☎(632)2028へ。
- WEBによる応募も受け付けます。詳しくは、市☎をご覧ください。

ID 1022877



▲市☎

表

320-8540
住所・氏名・壇名
ふりがな
宇都宮市役所
広報広聴課

裏

作品への思い
作品への思い
作品への思い